

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】令和 2 年 10 月 15 日 (2020.10.15)

【公開番号】特開 2018-186871 (P2018-186871A)
 【公開日】平成 30 年 11 月 29 日 (2018.11.29)
 【年通号数】公開・登録公報 2018-046
 【出願番号】特願 2017-89223 (P2017-89223)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 3 4

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 8 月 28 日 (2020.8.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技媒体が始動領域を通過したことにもとづいて可変表示を行う遊技機であって、
 遊技媒体が始動領域を通過したことを検出可能な、2 つまたは 3 つからなる第 1 検出部
 と、

所定の変化を検出可能な第 2 検出部と、

3 つからなる第 1 接続部と、所定数からなる第 2 接続部と、を有する主制御手段と、

前記第 2 接続部と接続される第 3 接続部を有する中継手段と、を備え、

前記主制御手段は、

前記第 1 検出部が前記第 1 接続部に接続され、前記第 2 検出部が前記第 3 接続部を介して前記第 2 接続部に接続される第 1 接続方法と、

前記第 1 検出部と前記第 2 検出部とが前記第 1 接続部に接続されるとともに、前記第 1 接続方法において前記第 2 検出部と接続されていた前記第 3 接続部がグラウンドに接続される第 2 接続方法と、のいずれかで接続され、

前記第 1 検出部の数が3 つの場合、前記第 1 接続方法をとることにより、全ての前記第 1 接続部が接続され、

前記第 1 接続部および前記第 3 接続部に接続可能な前記第 2 検出部は複数あり、複数の前記第 2 検出部のうちのいずれかが前記第 1 接続部または前記第 3 接続部に接続される

ことを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

遊技媒体が始動領域を通過したことにもとづいて可変表示を行う遊技機であって、
 遊技媒体が始動領域を通過したことを検出可能な、2 つまたは 3 つからなる第 1 検出部
 と、

所定の変化を検出可能な第 2 検出部と、

3 つからなる第 1 接続部と、所定数からなる第 2 接続部と、を有する主制御手段と、

前記第 2 接続部と接続される第 3 接続部を有する中継手段と、を備え、

前記主制御手段は、

前記第 1 検出部が前記第 1 接続部に接続され、前記第 2 検出部が前記第 3 接続部を介して前記第 2 接続部に接続される第 1 接続方法と、

前記第 1 検出部と前記第 2 検出部とが前記第 1 接続部に接続されるとともに、前記第 1 接続方法において前記第 2 検出部と接続されていた前記第 3 接続部がグラウンドに接続される第 2 接続方法と、のいずれかで接続され、

前記第 1 検出部の数が 2 つの場合は、前記第 2 接続方法をとることにより、全ての前記第 1 接続部が接続され、

前記第 1 接続部および前記第 3 接続部に接続可能な前記第 2 検出部は複数あり、複数の前記第 2 検出部のうちのいずれかが前記第 1 接続部または前記第 3 接続部に接続される

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

(1) 本発明による遊技機は、遊技媒体が始動領域を通過したことにもとづいて可変表示（例えば、特別図柄や演出図柄の変動表示）を行う遊技機であって、遊技媒体が始動領域（例えば、第 1 始動入賞口 13 や第 2 始動入賞口 14、第 3 始動入賞口）を通過したことを検出可能な、2 つまたは 3 つからなる第 1 検出部（例えば、第 1 始動口スイッチ 13 a や第 2 始動口スイッチ 14 a、第 3 始動入賞口スイッチ 14 b）と、所定の変化を検出可能な第 2 検出部（例えば、ゲートスイッチ 32 a やカウントスイッチ 23、一般入賞口スイッチ、磁気センサ、電波センサ等の検出装置）と、3 つからなる第 1 接続部（例えば、第 1 コネクタ 310 a や第 2 コネクタ 310 b、第 3 コネクタ 310 c）と、所定数からなる第 2 接続部（例えば、主基板側多極コネクタ 310 d）と、を有する主制御手段（例えば、主基板 31）と、第 2 接続部と接続される第 3 接続部（例えば、インタフェース基板側多極コネクタ 330）を有する中継手段（例えば、インターフェース基板 33）と、を備え、主制御手段は、第 1 検出部が第 1 接続部に接続され、第 2 検出部が第 3 接続部を介して第 2 接続部に接続される第 1 接続方法（例えば、第 1 始動口スイッチ 13 a、第 2 始動口スイッチ 14 a および第 3 始動口スイッチ 14 b がインタフェース基板 33 を介することなく主基板 31 に接続され、ゲートスイッチ 32 a がインタフェース基板 33 を介して主基板 31 に接続される接続方法。図 4 参照）と、第 1 検出部と第 2 検出部とが第 1 接続部に接続されるとともに、第 1 接続方法において第 2 検出部と接続されていた第 3 接続部がグラウンドに接続される第 2 接続方法（例えば、第 1 始動口スイッチ 13 a、第 2 始動口スイッチ 14 a およびゲートスイッチ 32 a がインタフェース基板 33 を介することなく主基板 31 に接続される接続方法。図 3 参照）と、のいずれかで接続され、第 1 検出部の数が 3 つの場合は、第 1 接続方法をとることにより、全ての第 1 接続部が接続され（例えば、第 1 コネクタ 310 a、第 2 コネクタ 310 b および第 3 コネクタ 310 c（すなわち 3 つのコネクタ）に対して、第 1 始動口スイッチ 13 a、第 2 始動口スイッチ 14 a および第 3 始動口スイッチ（すなわち 3 つの始動口スイッチ）が設けられている場合には、図 4 に示す接続方法が適用される）、第 1 接続部および第 3 接続部に接続可能な第 2 検出部は複数あり、複数の第 2 検出部のうちのいずれかが第 1 接続部または第 3 接続部に接続される（例えば、ゲートスイッチ 32 a やカウントスイッチ 23 を含む複数種類の検出装置は、第 1 コネクタ 310 a、第 2 コネクタ 310 b および第 3 コネクタ 310 c とインタフェース基板 33 の入力用コネクタとのいずれにも接続可能である）ことを特徴とする。

そのような構成によれば、基本設計や基板管理の負担が増加することを防ぐとともに、不正が行われることを防止することができる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

(2) 本発明による遊技機は、遊技媒体が始動領域を通過したことにもとづいて可変表示（例えば、特別図柄や演出図柄の変動表示）を行う遊技機であって、遊技媒体が始動領域（例えば、第1始動入賞口13や第2始動入賞口14、第3始動入賞口）を通過したことを検出可能な、2つまたは3つからなる第1検出部（例えば、第1始動口スイッチ13aや第2始動口スイッチ14a、第3始動入賞口スイッチ14b）と、所定の変化を検出可能な第2検出部（例えば、ゲートスイッチ32aやカウントスイッチ23、一般入賞口スイッチ、磁気センサ、電波センサ等の検出装置）と、3つからなる第1接続部（例えば、第1コネクタ310aや第2コネクタ310b、第3コネクタ310c）と、所定数からなる第2接続部（例えば、主基板側多極コネクタ310d）と、を有する主制御手段（例えば、主基板31）と、第2接続部と接続される第3接続部（例えば、インタフェース基板側多極コネクタ330）を有する中継手段（例えば、インタフェース基板33）と、を備え、主制御手段は、第1検出部が第1接続部に接続され、第2検出部が第3接続部を介して第2接続部に接続される第1接続方法（例えば、第1始動口スイッチ13a、第2始動口スイッチ14aおよび第3始動口スイッチ14bがインタフェース基板33を介することなく主基板31に接続され、ゲートスイッチ32aがインタフェース基板33を介して主基板31に接続される接続方法。図4参照）と、第1検出部と第2検出部とが第1接続部に接続されるとともに、第1接続方法において第2検出部と接続されていた第3接続部がグラウンドに接続される第2接続方法（例えば、第1始動口スイッチ13a、第2始動口スイッチ14aおよびゲートスイッチ32aがインタフェース基板33を介することなく主基板31に接続される接続方法。図3参照）と、のいずれかで接続され、第1検出部の数が2つの場合は、第2接続方法をとることにより、全ての第1接続部が接続され（例えば、第1コネクタ310a、第2コネクタ310bおよび第3コネクタ310c（すなわち3つのコネクタ）に対して、第1始動口スイッチ13aおよび第2始動口スイッチ14a（すなわち2つの始動口スイッチ）が設けられている場合には、図3に示す接続方法が適用される）、第1接続部および第3接続部に接続可能な第2検出部は複数あり、複数の第2検出部のうちのいずれかが第1接続部または第3接続部に接続される（例えば、ゲートスイッチ32aやカウントスイッチ23を含む複数種類の検出装置は、第1コネクタ310a、第2コネクタ310bおよび第3コネクタ310cとインタフェース基板33の入力用コネクタとのいずれにも接続可能である）ことを特徴とする。

そのような構成によれば、基本設計や基板管理の負担が増加することを防ぐとともに、不正が行われることを防止することができる。